

原発による汚染土壌の使用は、国際園芸博覧会にふさわしくありません

2027 年 3 月から上瀬谷基地跡地で半年間開かれる国際園芸博覧会に、政府は東京電力福島第 1 原発事故に伴い、福島県内から出た汚染土壌の使用を検討していることが分かりました。

読売新聞(2026 年 4 月 20 日付)は「環境省によると 8000 ベクレル以下の復興再生土。近くで作業しても被ばく線量は年間1ミリ・シーベルト以下で国際的な基準に合致している」「政府は大規模な国際イベントで安全性を広くアピールし、活用の促進に向けて理解醸成を図っていく考えだ」とし、「国際園芸博覧会で汚染土壌を活用する方向で調整に入った」と報道しました。

国際園芸博覧会を、汚染土壌を減らすことを目的に、その安全性をアピールするための「国際イベント」にしてよいのでしょうか。そもそも、使用あるいは廃棄されたとしても人体への影響がないように、放射能濃度の基準が設けられています。その基準は 1 年間に受ける放射線の量が 0.01 ミリシーベルト(例えば、放射線セシウムで 1 キロあたり 100 ベクレル)とされており、これ以下でなければ原発構内の廃棄物は持ち出せないとされています。国は「安全」と強調していますが、8000 ベクレルはあくまでもその地点でのポイント値であり、広範な土壌の中に放射能がどれだけあるのか不明です。

また、2020 年 9 月には、米軍通信基地として長らく使用されたこともあり、返還後の国の調査で 64 ケ所に鉛など汚染土壌があることが判明しました。このときも上瀬谷基地懇として汚染土壌の除去を求める署名に取り組み、防衛省、市に要請を行いました。その結果、山中市長となった 2022 年 6 月に横浜市は、1 ケ所を除き土壌汚染を除去すると回答し、その後実行された経緯もあります。

今回の国際園芸博覧会は「環境と共生」を強くアピールしています。その趣旨からいって、原発事故の汚染土壌を国際園芸博覧会に使用することは、やるべきことではありません。

国内外から1千万人以上の来場を見込む国際園芸博覧会にふさわしくありません。

つきましては、私たちは次のことを要請します。

- 1. 国際園芸博覧会で汚染土壌をどのように使用するのか。また福島などの地域の汚染土壌なのか明らかにすること。
- 2. 国に対し国際園芸博覧会での原発による汚染土壌の使用を止めるよう直ちに申し入れること。
- 3. 地域住民から不安の声が出ていますので、市民説明会をおこなうこと。

名前	住所

米軍上瀬谷基地返還と跡地利用問題懇談会(上瀬谷基地懇)

連絡先 横浜建設一般労働組合旭瀬谷支部 〒246-0022 横浜市瀬谷区三ツ境 I-2